

## 横浜の未来に希望ある発信を

### 林市長のリーダーシップを問う

昨年末の横浜市会第四回定例会市会で、黒川まさる市会議員は、自民党を代表して林市長と質疑を行いました。市長との論戦を振り返り、要約して報告いたします。(詳細は横浜市ホームページをご覧ください。)

**黒川市議 (以下Q) :** 市内には多くのスポーツ施設や宿泊施設がある。ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、事前キャンプ地の誘致を積極的に進め、子供たちへの夢と、スポーツ振興や国際交流を図るべきだ。

**林市長ら当局答弁 (以下A) :** 英国オリンピック代表チームとは今年度中に契約をまとめる。アフリカ諸国など他の国に対しても誘致活動を進める。ラグビーは公認チームキャンプ地として誘致を目指す。

**Q :** 日産スタジアムではラグビーの国際試合やビッグマッチを最優先で開催するべきだ。

**A :** 関係者と調整してぜひ大きな試合を招致してW杯までに経験を積み重ねたい。



**Q :** オリンピック種目にもなったスケートボードが出来る環境を市内各地に設けて普及啓発を図るべきだ。

**A :** 騒音や安全な運営など課題はあるが、適当な候補地があれば積極的に進めていきたい。

**Q :** 2017年4月からシーサイドラインの通学定期の値下げが決まったが、公営交通機関として市営地下鉄も子育て世代の負担軽減策として通学定期の値下げに踏み切るべきだ。

**A :** 平成29年度中には値下げできるように準備を進める。

**Q :** インターネット時代だからこそ、図書館や学校図書館司書を活用して正しい情報を選択して活用する技術を子供たちに教えるべきだ。

横浜市と大学、企業、研究機関などの蔵書のネットワーク化を図るとともにレファレンス機能を充実させるべきだ。

**A :** 各大学の図書館や国会図書館などの蔵書の無料取り寄せは実施している。連携講座などから学術機関や企業、病院などとは協力関係を構築している。調べ学習などで学校司書が授業と連携をしていく。

# 県からの権限委譲で二重行政を解消へ



Q：黒川勝が横浜JCで提唱して始まった『横浜型地域貢献企業認定制度』は開始から10年になる。地域に根差して頑張る企業が発展するために、認定企業をもっと増やすための工夫をさらに充実して欲しい。

A：10年連続認定の企業への表彰、さらなるインセンティブや助成制度を充実させて認定企業を増やしたい。

Q：県からの権限移譲に伴い、教職員配置が横浜市独自でできるようになるが、どの部分に力を入れていくのか。

A：地域性を踏まえ、いじめや不登校に対する体制の強化、小中一貫校や語学指導などに特に手厚く配置していきたい。



Q：今後、県との二重行政解消のためにどの分野の権限の移譲を県に求めていくのか。県は権限委譲をしたがらないと思うので勝ち取るべき場面ではしっかり県と闘って欲しい。

A：がけ、河川などの土木分野や幼稚園や私立学校などの教育分野など市民の生活に密着した分野は横浜市が担うべきと思う。本年度中に開催する県との調整会議ではしっかりと要求していく。



Q：熊本地震の後に熊本を訪問し友人の大西熊本市長から熊本地震では新しい事態がいろいろあったと聞いた。熊本地震を踏まえた震災対策の検証経過と今後の対応は変わるのか。

A：車中泊や物資の供給の流れ、避難所での物資の受け入れなど新しく検討すべき課題は応援に言った職員からも聞いている。震災対策も進化させるべき点については変更していく。



Q：市営地下鉄ブルーラインは、あざみ野から新百合ヶ丘まで延伸し、川崎北部と新横浜や横浜都心部を直結させるとともに、横浜北部で田園都市線と小田急線をつなぎ、新宿方面へのアクセスを便利にするべきだ。

A：川崎市との調整が課題だが、両市の市民にとって有益な延伸なので積極的に取り組んでいきたい。

Q：国家公務員宿舎などの国有地が売却される際には、地域の課題や地域活性化につながるチャンスと捉え、より地域のまちづくりに資する土地利用を誘導できるよう、地域の声を踏まえてスピード感をもって積極的に国に働きかけて欲しい。

A：金沢区にも多くの国家公務員住宅があるのは承知している。横浜市として市民の生活にプラスになるなら国に対して働きかけ、地区計画を策定するなど適切に誘導していきたい。

## 高齢運転者対策の強化を求める意見書を国に提出

昨年10月末、港南区でお年寄りが運転する軽トラックによる児童の死亡事故が発生したことを受け、建築都市整備道路常任委員会では国に対して総合的な高齢運転者対策を講ずるよう求める意見書を、黒川勝

委員長を中心に取りまとめ、横浜市委から松本純国家公安委員長らに対し提出されました。



## 狭あい道路整備促進条例が議員提案によって制定

同委員会では市内の古い住宅街で緊急車両や介護の車などが通れない細い道の解消をさらに進める議員提案条例が審議され成立しました。

6年前の自民党マニフェストでの公約はこれで完全実施となりました。

# いまこそ求められる 安心の地域交通サポート

Q：高齢者による自動車事故が相次いでいるが、免許返納者には敬老パスの割引や、地域交通バスの充実など、免許を返納しても安心して暮らせる環境づくりを検討して欲しい。

A：高齢者の免許返納のために横浜市としての独自策も検討しつつ、国の動きも視野に政策を進めていきたい。

結びに林市長に対し、原発にかかわるいじめの問題・横浜アリーナでのオリンピックの件・お年寄りの自動車事故などの対応を念頭に、国や都県、他都市の動向に対して待ちの姿勢でなく、積極的に横浜市長として発信し、日本最大の基礎自治体の長として、今やるべき政策を速やかに進めて欲しい。対外的にも内部に対しても指導力を発揮して欲しいと注文しました。市長からはこれまで取り組んできたことが伝わってないのであれば、より一層発信力を高めていきたいと異例の答弁がありました。

黒川市議が力を入れて取り組んでいる道路局の地域交通サポート事業ですが、昨年12月から高舟台地区では新たなバス停の新設・増便・最終バスの繰り下げが始まりました。同月、釜利谷地区でも一年間の実証運転として坂本・夏山循環バスがスタートしました。片吹地区では昨年10月から片吹地区と能見台駅を結ぶバス路線が本格運行を開始しました。地元町内会のみなさんの努力とバス事業者の協力が実った事業として金沢区の取り組みは内外で高く評価されています。



金沢区でも横浜市内でも、昭和40年代頃に開発・造成された戸建ての住宅街がたくさんあり、高齢化がどんどん進行しています。お子さんやお孫さんが一緒に住んでくれたり、近くにいたりすれば良いのですが、老夫婦世帯や大きな家にお年寄りが一人暮らしという家も多くあります。

こういった地域に、きめ細かいバス路線が出来れば、お年寄りも積極的に外出するようになるし、若い世代も帰ってきてくれるかもしれません。この事業では実証運行中は行政の助成金が出ますが、本格運行になると助成金はなくなり、採算が取れなければ事業は継続できなくなります。近隣の商業施設や商店街、医療や福祉機関などから独自広告や金銭的なサポートなどがあると事業の継続に繋がるのではと黒川市議は議会で提案をしています。

## 全国各地で講演・講義を行いました

昨年2月に那覇市での議員研修会で黒川まさる市議は『議員提案条例の制定で議会・行政・市長・市民がどう変わったのか』と題して30分間の講演を行いました。

同月、日本生産性本部の自治体トップフォーラムでは40分の講演の後、北川正恭早稲田大学名誉教授、泉房穂明石市長らと1時間のパネルディスカッションに参加しました。

8月には早稲田大学日本橋キャンパスで『マニフェスト大賞の10年』というパネルトークと『熊本大地震視察報告』を行いました。

10月には関東学院大学で『マニフェスト大賞と善政競争』と題して

120分の講義を学生に行いました。

新年1月には金沢小学校で横浜サンディエゴ友好委員会として5年・3年生の児童に授業を行いました。

黒川市議は新しい地方議会の在り方を全国各地で発信しています。



先日片吹地区でバスを待つ人たちに話を聞いてみると「バスに乗って夫婦で外出する機会が増えてとても感謝している」「運転免許も返上してクルマも処分しようかと思う」といった声を聞くことが出来ました。お年寄りに外出の機会を増やす、この事業が全市的に広がっていくよう応援していくと黒川市議は語ってくれました。

# ともづな

www.masaru-k.net

最終プレゼンテーション

確実に違う手法



チカラを結集して地方議会を変えていきます

## 第11回マニフェスト大賞

## 最優秀マニフェスト賞を受賞!

11月11日、六本木ヒルズにて『第11回マニフェスト大賞・授賞式』が開催されました。今年も全国から2514件の様々な政策提言やマニフェストの取り組みの応募があり、10月5日にはマニフェスト賞議会部門は5件の優秀賞に絞られました。この日は最優秀賞が塚本壽雄早稲田大学公共経営大学院教授から発表され、黒川まさる横浜市議が最優秀マニフェスト賞を受賞しました。議会部門で個人が受賞するのは初めてです。

選挙に向けてアンケートで区民ニーズをつかみ、それを元に地域別・テーマ別に成果・課題・将来像を示したマニフェスト『愛する金沢再生プラン3』を作成。横浜市政においては『よこはま自民党マニフェスト 責任と約束』を発信。50枚に及ぶパワーポイントの説明資料をボードにして駅頭や商業施設の前などで指差し棒を使って解説・プレゼンテーションを繰り返したそうです。



最優秀賞の受賞は予期してなかったそうで受賞スピーチは全く覚えていないそうです

商店街活性化ビデオでのダンス動画の発信、100ページを超える政務調査レポートの毎年の発刊、ネットやSNSでの発信も評価されました。

黒川市議は「同じ志の全国の仲間から刺激を受けて私のマニフェストは作成できました。この受賞を励みに横浜市政と議会を進化させてまいります。」と喜びを語りました。

審査委員の塚本壽雄早稲田大学教授は「選挙ごとのマニフェストのブラッシュアップやパネル作戦など、多岐にわたる活動が評価された。横浜市の議会改革の中心人物である黒川議員の先進的な活動に今後も期待したい」と講評を述べました。



恩師の北川正恭審査委員長と



パネルを活用した演説も好評でした



みんなに愛されたポスターです

市民に開かれたわかりやすい政治を目指す、黒川まさる横浜市議員に期待、要望、激励、メッセージなどをお寄せください。

お名前  
連絡先

返信FAX 045-786-4310  
masaru-k.net@hb.tp1.jp